



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第  
10号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第10号). 泌尿器科紀要 1957, 3(10): 662-662

ISSUE DATE:

1957-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111512>

RIGHT:

## 編集後記

健康保険法の改訂によって大学病院に於ける診療の特殊性が抹殺されたことに対して我々は強く抗議したがその後厚生省から大学病院の特殊性を認めるとの通達が発せられて我々はやや安堵したのである。然しその通達を読むと、大学病院と雖も原則的には療養担当規則に従わねばならぬとし、ただ大学病院の組織、機能、及び施設設備の特殊性によって診断、治療の困難な患者、重症患者が多いと云う特殊性の故に審査の面に於て考慮するとの主旨である。然し我々が大学病院の特殊性として第一に挙げる点は医育、研究機関であることで、重症患者が多いと云うことも一つの特殊性ではあるが主なことではない。この点をはつきりと述べて置かねばならぬ。厚生省は何故に大学病院が医育、研究機関であるとする特殊性を認めようとしないのであろうか。



当用漢字やかなづかいの問題はなかなかむずかしい。合理的な面もあるが納得出来ない点もある。我々は昔の教育を受けたので古い規則にとらわれやすいが、それにしても新法がすべて良いとは思えない。私我先般原稿を書いて或雑誌社へ送り、その初校が来たのでそれを見ると、私が漢字で書いたのが平仮名になっているところが多い。その内の一部分を記すと、殆ど(ほとんど)、極めて(きわめて)、即ち(すなわち)、特に(とくに)、著し(いちじるし)、乃至(ないし)、始まり(はじまり)、丁度その頃から(ちょうどそのころから)、従つて(したがって)、次の如く述べて(つぎのごとくのべて)、最も(もつとも)、甚だ(はなはだ)、全く(まったく)、或は(あるいは)、例えば(たとえば)、並びに(ならびに)等である。この他にもたくさんある。以上の中には私の用いた漢字よりも( )内の仮名の方が適当と思われるものはないではないが、然しわざわざ仮名に書き直すには及ばぬと思われるものもある。徒らに冗長になつて読みにくいものもある。この論文を読む人は仮名でなくても漢字が十分に読めるわけであるから、わざわざ仮名に直して字数を増す必要もないであらう。殊に「述べる」を「のべる」、「云い得ない」を「いいえない」と書き換えるなどは意味もわかりにくくなる。これほどまでに書き換えられると筆者の意向が無視され過ぎているように思われる。

### 購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

### 投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。  
例。中野：泌尿器科紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部